

## 令和7年度運営懇話会での委員の主な意見について

### 【議題:ミュージアム運営の今後の方向性】

#### (ミュージアムの機能向上・発信の取組)

- できることをきちんとやっている点など順調に運営が行われているのではないか。
- 地元を知るといふこと、あわせて他の地域や施設と一緒にやることは大変良いと思う。
- 収集した資料について、管理上の制約があると思うが、貸し出しなどにより実際に見たり、手に取ったりできる機会を増やしてほしい。
- 実物が難しい場合は、学校とのコラボ等により、3Dプリンターでレプリカを創ったりして活用するのはどうか。
- 令和4年度にミュージアムがスタートし、入館者、企画展、関連イベント等に関するデータが集積されてきていると思うので、経年的な変化などが見られるとよい。

#### ◆絵画「よんまんひきのしらす」の常設展示について

- 平和という問題に触れながら、このミュージアムが、その学習の拠点であるという新しい方向性を示す一つのシンボリックなものになりうるのではないか。
- 造兵廠があった地に建つミュージアムに来て、絵の制作の背景にある家族との関わりとか、地域性とかを含めた形で学びの場とするための象徴として意義があるのではないか。
- 子どもが手で触れることなどへの対策は必要だが、展示することについての反対意見なし。

#### ◆教員を対象とした平和学習用研修プログラムの検討

課題解決のための調査を研究者と共同で行って実践・改善・次の実践に挑むというサイクルをまわしていくアクションリサーチを想定。

- 中高生が博物館に足を運ぶ機会はなかなかないので、まず、中学・高校の教員へのアプローチをすることが大事。平和学習というテーマでなくても、社会科の授業の中や他の学習機会の中で、平和を考えていただく。
- 関心が薄い人もいると思われる中、教育の重要なポジションにいる先生方に、平和教育の教材としてミュージアムをどういうふうに使っていただくかがポイント。